

地方創生関連交付金事業等の効果検証について(令和2年度実績)

資料3-3

■地方創生推進交付金事業

No.	名称	事業概要	事業名	評価指標(KPI)				評価(案)
				指標	目標値	単位	実績値	
1	城下町高田の歴史・文化をいかした「街の再生」～コンパクトシティによるまちづくり～	本事業は、城下町としての歴史を有し、様々な都市機能が集積している中心市街地の高田市街地において、城下町の町割りに由来する土地利用上の課題を克服し、人口減少社会に対応した「街なか居住」を促進するとともに、市街地に点在する有形・無形の歴史・文化資産の活用を通じた「街なか回遊観光」による経済基盤の強化や市内外との交流を促進することにより、コンパクトシティの考え方に基づく持続可能なまちづくりを一体的・重点的に推進するもの。	○まちなか居住推進事業 ○町家シェアハウス管理運営費 ○100年映画館のあるまち誘客・回遊強化推進事業	高田区の人口の社会減の解消数(H22～H26の平均値-192人/年からの削減数)	48	人	244	【目標値を達成】 ・高田城址公園整備や100年映画館周辺交流広場整備など、日常の賑わい創出と住環境の向上に資する施設整備をソフト事業と一体的に推進したことにより、まちの魅力が高まり、人口の社会減の抑制につなげることができた。
			○歴史文化資産活用推進事業 ○城下町高田再生推進事業 ○施設の維持管理(旧師団長官舎) ○街なか回遊観光事業 ○景観づくりの推進 ○ビジネスタウン推進事業	高田区の街なかの観光客入込数	428,200	人	69,308	【目標値の達成は5割未満】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの縮小・中止や人の動きに変化が生じ、観光客は減少した。 ・今後は、感染症の対策を図りつつ、本事業で整備した文化施設等を新たな拠点として、街なか回遊観光を推進する。
				新たに入居した空き家、空き店舗の数	10	件	10	【目標値を達成】 ・空き家・空き店舗への新たな入居が生まれていることから、今後は空き家活用の事例やまちの賑わいの良い変化を積極的に情報発信することで、空き家の更なる利活用の促進を図っていく。
2	雪室・利雪による地域産業イノベーション	本事業は、雪を地域資源として活用し、雪室で貯蔵した雪室商品と雪下・雪室野菜の高付加価値化や地域ブランド化を進めていくことで、当市ならではの新たな仕事づくりや、所得向上につなげるもの。 さらに、雪国の魅力を体験できる環境づくりや、市民等が雪室・雪利用を学ぶ講座等を通じて、雪国上越を目的地とした誘客や雪国文化の継承、地域への愛着や誇りの醸成につなげるもの。	○雪室商品等開発支援事業 ○雪室推進プロジェクト事務局運営費補助金 ○旧安塚ほのぼの荘雪室運営費事業費補助金 ○雪下・雪室野菜販路拡大支援事業 ○雪室商品等市場開拓支援事業 ○灯の回廊事業 ○雪室や雪利用を学ぶ環境講座実施業務委託 ○急速冷凍技術導入補助金 ○旧安塚ほのぼの荘雪室改修・増築工事、実施設計、管理業務	雪室を利用した商品販売や集客を行う市内直売所・レストランの年間入込客数	228,000	人	79,000	【目標値の達成は5割未満】 ・直売所では、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、特に大型連休の5月や豪雪に見舞われた1月に前年度と比較して大きく減少した。 ・レストランでは、同感染症の拡大を防止するため、令和2年3月から5月までの間に休業したことに加え、営業再開後も利用客が団体客を含めて減少した。 ・今後は、直売所の敷地内で行われる予定の地元イベントと連携するほか、レストランでの新たなサービスの導入やSNSを通じた誘客促進の取組を実施し、入込客の増加を図る。

No.	名称	事業概要	事業名	評価指標(KPI)				評価(案)
				指標	目標値	単位	実績値	
3	地域資源をいかした観光誘客～市民が主役の観光地域づくり～	当市の観光入込数は、概ね減少傾向で、日常的な誘客や日々魅力を伝える環境が整っていない現状にある。さらに、当市は、市域が広く、魅力が点在している現状を抱えている。一方で、春日山城や高田城など越後国の中心として栄えた歴史・文化等が存在し、そこから育まれた多種多様な地域資源が多く存在する。そこで、観光促進の第1歩として、地域一丸となった観光地域づくりによる日常的な観光誘客の基礎となる環境整備や地域資源の磨き上げによる観光資源化を図ることで、観光入込客増加や観光消費の増加による地域活性化を目指す。	○観光地域づくり実践事業 ○地域資源連携交流促進支援事業	休日1日当たりの市民以外の市内常住人口(年間平均)	24,942	人	【参考】 22,599 (令和元年度)	※令和2年度の実績値は10月下旬頃に公表予定 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの縮小・中止や人の動きに変化が生じており、観光客は減少している。 ・今年度は、それらの影響や変化を捉える中で、市担当部署や関係者との情報共有・連携を図りながら取組を推進する。
				歴史的旧家の連携誘客事業の年間来場者数	2,731	人	465	【目標値の達成は5割未満】 ・新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、前年度まで年2回開催していた名家5邸一斉公開を、令和2年度は年1回の開催に変更して開催したが、同感染症拡大の影響を受けて来場者が減少した。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、年3回の一斉公開を実施することで目標値の達成を目指す。
				上越観光Naviの総ページビュー数	1,200,000	件	695,167	【目標値の5割以上達成】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、高田城址公園観桜会や謙信公祭などの観光イベントが中止・縮小となり、目標値を達成できなかった。 ・今年度はコロナ禍における観光ニーズの変化を捉えた情報発信を行うことで目標値の達成を目指す。
4	雪が育んだ100年産業・製造業基盤強化事業	当市の人口減少は自然減と社会減が同時に進行し、そのうち社会減では、10代後半に進学等で市外へ転出したまま戻らないことが主な要因となっている。このような人口の社会減をとどめるため、当市の特徴的な産業である製造業の中でも、特に、新たな事業展開や生産効率、職場環境の向上などに積極的に取り組む企業(地域中核企業)に対して集中して支援することにより、企業の成長を促し、安定的で魅力ある雇用の場が創出されることで、人口流出のダム機能を果たすとともに、稼げる企業の増加により持続可能な経済社会の構築を目指す。	○地域中核企業知名度向上事業 ○首都圏大学と市内企業の情報交換会 ○企業支援専門員(コーディネーター)雇用 ○提案型モデル支援事業 ○生産性向上支援事業	当市製造業全体での付加価値額	253,623	百万円	【参考】 254,061 (平成30年度)	※令和2年度の実績値は今後公表予定 ・今年度は、各種事業の拡充(地域中核企業知名度向上事業に係る補助金の補助率や補助額の上限額の引上げ、生産性向上事業に係る補助額の上限額の引上げ)により目標値の達成を目指す。
				当市製造業の常用従業員数	16,953	人	【参考】 17,295 (令和元年度)	
				提案型モデル支援事業で支援した企業の付加価値額	103	%	【参考】 100 (令和元年度)	
				地域中核企業知名度向上事業への参加者数	20	人	15	

■地方創生拠点整備交付金事業

No.	名称	事業概要	事業名	評価指標(KPI)				評価(案)
				指標	目標値	単位	実績値	
1	雪室よる地域活性化計画	中山間地域の農村では、農家の高齢化が進むにつれて農業からのリタイヤも進行する一方で、全国では美しく自然あふれる環境に魅力を感じ、農村への田園回帰も見られるところである。田園回帰の移住先の多くは、地域の活力が今なお残り、農業生産活動はもとより、都市との交流も活発に行われている。生産条件が不利な中山間地域農業と地域の活力が維持されるためには、再生産可能な農業所得を確保し、かつ、都市と農村の交流が活発に行われている状態を作り出していくことで、持続可能な農村の再構築を目指す。	○雪中貯蔵施設整備事業	貯蔵した農産物の販売額	0	千円	—	※令和3年3月27日から施設の利用を開始したため、目標値・実績値はなし。 ・今後は、市内の農業者を対象にした説明会で利用を呼び掛けることなどにより目標値の達成を目指す。
				雪中貯蔵施設の見学者数	0	人	—	※令和3年3月27日から施設の利用を開始したため、目標値・実績値はなし。 ・今後は、市のHPや広報、SNSを活用した情報発信などを行うことで目標値の増加を目指す。
				道の駅「雪のふるさとやすづか」の年間入込客数	98,405	人	64,566	【目標値の5割以上達成】 ・直売所では、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、特に大型連休のある5月・8月や豪雪に見舞われた1月に大きく減少した。 ・今後は、直売所の敷地内で行われる予定の地元イベントと連携することで目標値の達成を目指す。
2	久比岐野の改修による雪だるま高原活性化計画	当区を訪れる観光客は、スキー場利用客の減少をはじめ年々減少しているとともに、コンテンツの中心が雪となるため、冬期以外に誘客を促進する環境が整っていない現状にある。そこで、雪だるま高原の宿泊施設「久比岐野」を日帰り温浴施設として改修し、誘客を促進する拠点施設として整備することで、源泉かけ流しの日帰り温泉を売りとした通年の観光客増加を図るとともに、日帰り客を対象とした地元食材を活用した飲食機能の拡充や地場物産を扱う物販機能の拡充による観光産業の振興と雇用の創出を目指す。	○久比岐野浴室改修工事等	改修施設である「久比岐野」の日帰り利用者数	1,000	人	3,645	【目標値を達成】 ・割引券の配布やSNSを活用した情報発信を引き続き行うとともに、飲食サービスの提供を検討することで利用者の更なる増加を目指す。
				改修施設である「久比岐野」の日中飲食サービス及び物販の売上額	1,000	千円	139	【目標値の達成は5割未満】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、黒字化が見込めない飲食サービスを提供せず、物販のみで運営を開始したため、目標値を達成できなかった。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、飲食サービスの提供開始を検討するとともに、利用者のニーズを把握した物販サービスを行うことで目標の達成を目指す。
				雪だるま高原の来場者数	128,900	人	57,282	【目標値の達成は5割未満】 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けたほか、多くの入込数が見込める1月に豪雪に見舞われたことが大きな要因となり、目標値を達成できなかった。 ・今後は、コロナ禍における観光ニーズの変化を見極めながら事業を進めることで目標値の達成を目指す。

■企業版ふるさと納税制度適用事業

No.	名称	事業概要	事業名	評価指標(KPI)				評価(案)
				指標	目標値	単位	実績値	
1	国登録有形文化財小林古径邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古径記念美術館増改築事業	小林古径邸敷地内に小林古径記念美術館を増改築し、国登録有形文化財を活用した美術館を整備する。あわせて、これまで博物館で収蔵してきた上越ゆかりの美術作品も所管替えし、分離されていた美術館機能を一元化することで魅力ある美術館とする。整備後は、古径作品の紹介にあわせて、本市ゆかりの美術作家や優れた国内外の美術作品を展示し、本市内外から入館者を呼び込む。また、当館入館者を隣接する博物館及び文学館等の文化施設に回遊させることで交流人口の拡大を図る。	小林古径記念美術館増改築事業	高田城址公園内施設※の利用者数 ※上越市立歴史博物館、小林古径記念美術館、高田城三重櫓、小川未明文学館	120,000	人	83,279	【目標値の5割以上達成】 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、目標値を達成できなかった。 ・令和2年10月に小林古径記念美術館の増改築が完了したところであり、今後は当該施設における展覧会等の開催について積極的に情報発信を行い、利用者の増加を図る。
2	上越市まち・ひと・しごと創生推進計画	当市の平成30年の推計人口は約19万2千人であり、令和27年には約14万3千人に減少すると推計されている。当市の人口減少の主な要因は、出生数の減少による自然減と、進学や就職によって10代から20代前半の若者が市外へ流出することによる社会減と考えられ、これらの課題に対応するため、若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現、安定的で魅力ある雇用の創出、時代に合った地域の形成や地域間連携によるまちの活性化及びUターンによる多様な人の流れやまちを担う人の創出を通じて、人口減少の緩和を図る。	上越市まち・ひと・しごと創生推進計画	34歳以下の就職率	42.2	%	33.5	【目標値の7割以上達成】 ・新規求職数の減少(89.8%)と就職数(80.9%)の減少により目標値を達成できなかった。ただし、県平均(31.0%)と比較すると上回っている状況である。 ・引き続き関係機関と連携し、地元企業の雇用継続支援や若者の市内企業の関心を高めるための取組を行う。
				合計特殊出生率	1.68		【参考】 1.54 (令和元年度)	※令和2年度の実績値は今後公表予定 ・引き続き、結婚・出産・子育ての希望を実現しやすい環境づくりを推進する。
				休日滞在人口率	1.04		【参考】 1.03 (令和元年度)	※令和2年度の実績値は今後公表予定 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの縮小・中止や人の動きに変化が生じており、観光客は減少している。 ・今年度は、それらの影響や変化を捉える中で、市担当部署や関係者との情報共有・連携を図りながら取組を推進する。
				転入者数	4,246	人	4,221	【目標値の7割以上達成】 ・令和2年度の転入者は、県内が1,823人(前年度比75人増)、県外が2,373人(同104人減)、その他が25人(同8人減)となっており、目標値を達成できなかった要因としては、県外からの転入者の減少が大きい。 ・本市においては、10代から20代前半にかけて社会減が大きく進行していることから、高校生の頃から地域に愛着を持ってもらい、将来的なUターンにつなげるための取組を推進する。 ・また、移住定住を支援する制度の活用呼びかけやインターネット広告などを活用した情報発信を行うことで、県外からの移住者の増加に努める。
				雇用の場が整っていると感じる20代・30代の市民の割合	42.2	%	—	※実績値は、次期総合戦略策定時に実施予定の市民アンケートにより把握予定
				出産や子育てがしやすいと感じる20代・30代の市民の割合	70	%	—	
上越市を暮らしやすいと感じる20代・30代の市民の割合	77.6	%	—					
今後も上越市に住み続けたいと感じる20代・30代の市民の割合	60.5	%	—					